

追跡

— あの質問のゆくえ —

農家民宿のすすめ方について

農家民宿育成の研究会を実施しているようですが、今後のすすめ方を伺います。

平成18年9月定例議会

町長答弁

関係者と協議しすすめる

町には宿泊施設が不足しています。農家民宿は、地域の資源をいかした魅力的な宿泊機能があれば良いと思っています。関係者と協議をしながらすすめていきます。

どうなった



農作業を体験（中山地区）

現在取り組み中

本町の農家民宿は、中山地区で1軒が営業しています。農家民宿の開業のきっかけともなる教育旅行の受け入れは置賜地区全体で取り組み、本町は今年で3年目を迎えました。5月には中山、山口地区で120名の千葉県内の中学生が1泊し、農作業などを実際に体験して田舎暮らしを満喫しました。今後、研修会を開催するなど引き続き取り組みをすすめていきます。

議会だよりのご意見・ご感想などを議会事務局(表紙参照)までお寄せください。



編集作業中

町民の声

この度、初めて議会傍聴を経験しました。なぜ、傍聴をしたかという点、4月に行われた選挙で定数14人中、その半分が新人となり、議会の構成が様変わりしたなかで、今後の白鷹町の一翼を担っていくに足りる議会となっていくのか、非常に興味があったからです。

一般質問などでは、時節にあった内容で評価できるものだと思います。これからも、活気ある議会、そして、町づくりの一翼を担っていくて欲しいと思います。

(50代男性)

編集後記



3・11の東日本大震災は、災害時における備えの重要性を私達にまざまざと知らしめました。経験したことのない長時間の停電、燃料や食料品などの品不足といった状況を経て町議会選挙が行われました。結果、これまでにない定数の半数が新人議員の議会構成でスタートしました。議会広報委員も5人中4人が初めて経験するという体制です。地方分権がすすむなか、議会のあり方も問われています。議会報告や情報を公開するという点での、議会活性化の一翼を担う議会広報でもあると思います。議員の自主編集によるわかりやすく読みやすい議会報を旨として、委員一丸となつて発行に努める所存です。

一般会計の歳出に占める議会費の割合は、2パーセントです。この割合に対する評価は、これからの議会活動にあることを自覚していきたいものです。

(関)

発行責任者・議長
青木 彰 榮
広報委員
委員長 千鶴子
副委員長・編集長 山田 仁
委員 樋口与一朗
委員 中 孝
委員 新野いく子
印刷・長谷川印刷